

December 3, 2021

【前日の為替概況】ドル円、3日ぶり反発 売り一巡後は買い戻しが優勢に

2日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反発。終値は113.11円と前営業日NY終値(112.78円)と比べて33銭程度のドル高水準となった。欧州株相場の下落を背景にリスク・オフの円買い・ドル売りが先行し、21時30分過ぎに一時112.71円付近まで値を下げたものの、売り一巡後は買い戻しが優勢に。オセアニア時間に付けた日通し安値112.66円が目先サポートとして働いたほか、前週分の米新規失業保険申請件数が22.2万件と予想の24.0万件より強い内容となったことが相場を下支えした。米国株が大幅に反発したことも買い戻しを促し、一時113.24円付近まで持ち直した。

米連邦公開市場委員会(FOMC)で今年投票権を有するボスティック米アトランタ連銀総裁が「2022年第1四半期末までにテーパリングを終了することが適切になる」「来年末までに少なくとも2回の利上げを実施することが正当化される可能性」と述べたこともドル買いを誘った。同じくFOMCで投票権を有するデイリー米サンフランシスコ連銀総裁もテーパリング加速が必要となる可能性を指摘し、「利上げを見据えた計画の策定を開始する時期に至っている可能性がある」との考えを示した。

ユーロドルは続落。終値は1.1301ドルと前営業日NY終値(1.1320ドル)と比べて0.0019ドル程度のユーロ安水準だった。米長期金利が上昇幅を縮小したタイミングでユーロ買い・ドル売りが優勢となり、一時1.1348ドルと日通し高値をつけたものの、買い一巡後は次第に弱含んだ。

良好な米雇用指標を手掛かりにユーロ売り・ドル買いが出たほか、米連邦準備理事会(FRB)高官のタカ派的な発言を受けてドル買いが進行。5時前に一時1.1295ドルと日通し安値を更新した。

ユーロ円は反発。終値は127.84円と前営業日NY終値(127.67円)と比べて17銭程度のユーロ高水準。欧州株相場の下落を材料に円買い・ユーロ売りがじわりと強まり一時127.75円付近まで値を下げたものの、オセアニア時間に付けた日通し安値127.53円が目先サポートとして意識されると下げ渋った。米国株相場の上昇も相場を下支えした。

【本日の東京為替見通し】ドル円はもみ合いか、米雇用統計・113.00円のOPが値動き狭める

本日の東京時間はもみ合いとなるか。一昨日のパウエルFRB議長とウィリアムズ米NY連銀総裁の発言、昨日のボスティック米アトランタ連銀総裁とデイリー米サンフランシスコ連銀総裁の発言で、テーパリングが加速することはほぼ疑いがないような状況となっている。為替市場はどの程度テーパリングの加速を織り込んでいるかは分からないが、短期の債券市場はほぼ織り込みつつある。日米の景況感や金利動向の差異が、ドル円の下値を底堅くする地合いは変わらないか。

一方で、新型コロナウイルス・オミクロン株の動向には依然として要警戒となる。先月の南アでの感染拡大がデルタ株よりオミクロン株が優勢となったと判明したが、欧米での感染状況が、南ア同様にオミクロン株が主であった場合は、今後のロックダウンに結び付く可能性もある。現時点ではバイデン米政権の首席医療顧問を務めるファウチ氏が、オミクロン株に対するロックダウンの必要性などを否定していることで、米国内ではオミクロン株の感染を楽観視している。しかし、週末を含め同株の感染状況やワクチン効果などの詳細が判明してくるにつれ、米国内での捉え方に変化があった場合のリスクには警戒しておきたい。

上述のように、オミクロン株の感染および詳細に関するニュースヘッドラインで、為替市場は不安定な動きを見せるだろうが、本日は米雇用統計が発表されることで、東京時間は動きにくい。市場はすでにテーパリングの加速を織り込みつつあることで、雇用統計はネガティブサプライズの方が反応は大きくなるか。なお、本日のNYカットで113.00円に大き目なオプションが期日を迎えることで、113.00円挟みはオプションに絡んだフローが出ることが予想され、動きが神経質になるだろう。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>
特になし

<海外>

- 10:45 ◎ 11 月 Caixin 中国サービス部門購買担当者景気指数 (PMI、予想 : 53.0)
- 16:00 ◎ 11 月トルコ消費者物価指数 (CPI、予想 : 前月 3.00% / 前年比 20.70%)
- 16:45 ◇ 10 月仏鉱工業生産 (予想 : 前月比 0.5%)
- 19:00 ◎ ラガルド欧州中央銀行 (ECB) 総裁、オンラインイベントに参加
- 17:50 ◎ 11 月仏サービス部門 PMI 改定値 (予想 : 58.2)
- 17:55 ◎ 11 月独サービス部門 PMI 改定値 (予想 : 53.4)
- 18:00 ◎ 11 月ユーロ圏サービス部門 PMI 改定値 (予想 : 56.6)
- 18:30 ◎ 11 月英サービス部門 PMI 改定値 (予想 : 58.6)
- 19:00 ◎ 10 月ユーロ圏小売売上高 (予想 : 前月比 0.2% / 前年比 1.2%)
- 20:00 ◎ サンダース英中銀金融政策委員会 (MPC) 委員、講演
- 22:30 ☆ 11 月カナダ雇用統計 (予想 : 新規雇用者数変化 3.50 万人 / 失業率 6.6%)
- 22:30 ◇ 7-9 月期カナダ労働生産性指数 (予想 : 前期比 ▲0.8%)
- 22:30 ☆ 11 月米雇用統計 (予想 : 非農業部門雇用者数変化 55.0 万人 / 失業率 4.5% / 平均時給、前月比 0.4% / 前年比 5.0%)
- 23:15 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演
- 23:45 ◎ 11 月米サービス部門 PMI 改定値 (予想 : 57.0)
- 23:45 ◎ 11 月米総合 PMI 改定値
- 24:00 ☆ 11 月米サプライマネジメント協会 (ISM) 非製造業指数 (予想 : 65.0)
- 24:00 ◎ 10 月米製造業新規受注 (予想 : 前月比 0.5%)

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

2日 08:22 メスター米クリーブランド連銀総裁
「テーパリング加速の議論にオープン」
「オミクロン株は新たなリスクだが、さらなるデータが必要」
「必要に応じて来年数回の利上げが可能」
「テーパリング加速によって早期の利上げが可能」

2日 10:37 鈴木日銀審議委員
「日本の景気は感染症の影響で厳しい状態だが、基調は持ち直し」
「変異株の流行もあり、内外経済の不透明感が強い」
「金融緩和の副作用が累積していくことに注意」

2日 22:16 ネバティ・トルコ新財務相
「大統領の方針に沿った政策を進める」
「高金利は優先事項としない」

2日 23:08 石油輸出国機構(OPEC)プラス筋
「OPEC+、1月の原油生産量 40万バレル増産計画の実施に合意」

2日 23:30 イエレン米財務長官
「パンデミックは経済活動を完全に抑制しないだろう」
「米国の労働力参加率が低下の原因は不明」
「労働力不足が賃金に上向きの圧力をかけ始めている」
「バイデン政権はサプライチェーン問題を軽減するため、民間部門の取り組みを調整。可能な限りの政策を実施」
「関税は価格の上昇に寄与」
「利上げを決めるのはFRB」

2日 23:52 マコネル米上院院内総務(共和党)
「政府機関閉鎖は起こらないだろう」

3日 00:10 ブリンケン米国務長官
「ラブロフ露外相に我々の懸念を明確かつ直接的に伝えた」
「現在の緊張を緩和するのはロシアの役目」
「米露首脳が近い将来に直接話し合う可能性」
「ウクライナはロシアの脅威にはならない」

3日 00:12 レーン・フィンランド銀行(中央銀行)総裁
「ユーロ圏のインフレはほとんど一時的なもの」
「いくつかのインフレ構成要素が予測よりも長く続く可能性はある」

3日 00:29 米財務省
「ベラルーシ関連の制裁を発動、対象は20人の個人と12の団体」
「制裁対象の個人には、ベラルーシ大統領の息子も含まれる」
「米国市民がベラルーシの国債取引や融資を行うことを制限」

3日 01:42 ポスティック米アトランタ連銀総裁
「雇用、GDP成長率ともかなり堅調な回復を見せている」
「インフレが長期化すればするほど、リスクが高まる」
「テーパリングで、22年には金利の実質的な引き上げについて選択肢が増える」
「オミクロン株への評価はまだ早い、新たな変異種にもかかわらず、米経済は成長すると予想」
「テーパリングをできるだけ早く終了させることに賛成」
「来年の第1四半期末までにテーパリングを終わらせることがFRBにとって望ましい」

3日 02:03 クオールズ米連邦準備理事会(FRB)理事
「テーパリング加速を支持」

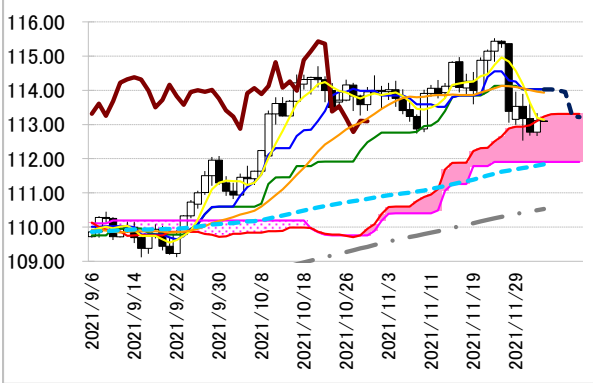
3日 02:05 バーキン米リッチモンド連銀総裁
「長期的なインフレ期待は常に懸念事項」
「長期的なインフレ期待をFRBの目標で安定させることが重要」
「FRBが実施している金融政策正常化を支持」

3日 02:08 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁
「予想よりも早期のテーパリングが必要となる可能性」
「利上げについての計画を作成し始める必要がある可能性」

3日 04:17 バイデン米大統領
「(米政府機関が金曜日に閉鎖するかとの質問に)閉鎖はしない」
「共和党と民主党の上院院内総務と会談した」

※時間は日本時間

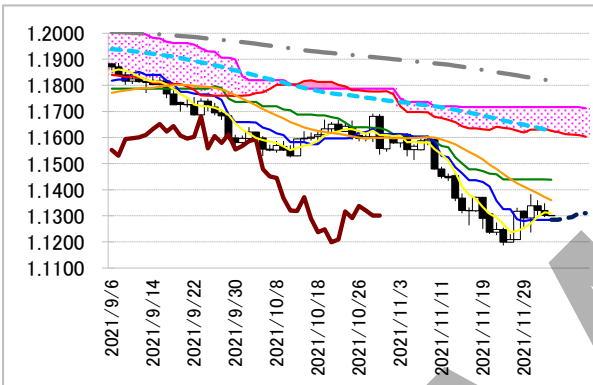
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=戻しても雲の上限へ押し返される展開が続きそう>

陽線引け。113.33円まで戻したが、一目均衡表・雲の上限113.11円へ押し返されNYを引けている。本日113.23円へ切り上がる雲の上限の動きに沿うように、再び小幅に戻す場面は想定できる。しかし上値に低下が見込まれる一目均衡表・転換線114.03円が控える状態で、上伸は難しそう。再び雲の上限付近へ押し戻される展開を予想する。雲上限付近を維持して、転換線が113円台へ低下してくるタイミングで同線の抵抗をこなせば、114円付近へ回帰することができそう。

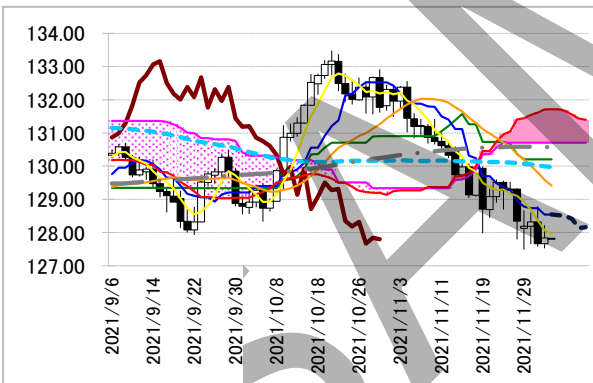
レジスタンス2 114.03(日足一目均衡表・転換線および基準線)
レジスタンス1 113.89(11/30 高値)
前日終値 113.11
サポート1 112.53(11/30 安値)



<ユーロドル=転換線を割り込みレンジ切り下げのリスクも>

上影小陰線引け。21日移動平均線1.1372ドルに近づく場面もあった。しかし押し返され、昨日NY終盤から1.13ドル前後で推移している。じり高も見込まれる一目均衡表・転換線1.1285ドルが目先の支えだが、割り込んでレンジを一段切り下げのリスクも高まりつつある。再び戻しても1.1360ドル付近へ低下して21日線が重しとなり、上伸は難しいか。

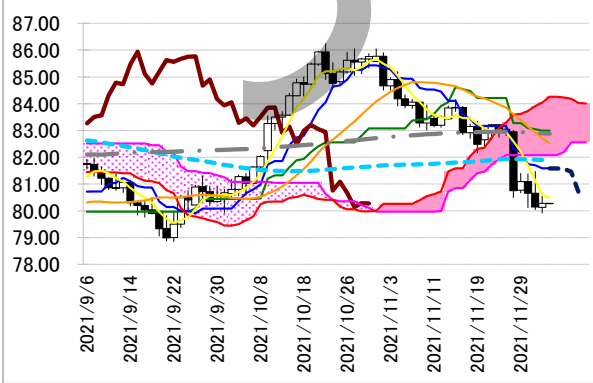
レジスタンス1 1.1360(21日移動平均線)
前日終値 1.1301
サポート1 1.1236(11/30 安値)



<ユーロ円=下値を切り上げる流れへ転じきれず>

上影小陽線引け。下値を切り上げる展開へ転じしきれなかった。128円前後で低下中の5日移動平均線へ戻す場面もあったが押し返されている。127円台は維持している。だが、一目均衡表・転換線128.55円はまだ低下が続く見込みで下向きの流れを示唆。目先の下値の節目11月29日安値127.49円を割り込む場面もあるか。2月8日高値127.13円が次の相応な節目となるかもしれないが、十分な支えを得られなければ、2月以来の126円台へ沈むことになる。

レジスタンス1 128.55(日足一目均衡表・転換線)
前日終値 127.84
サポート1 127.13(2/8 高値)



<豪ドル円=下向きの流れが落ち着く可能性も>

小陽線引け。10月初旬以来の80円割れとなった。ただ、下向きの流れが落ち着きつつある可能性を示唆する小さい陽線を形成。80.49円前後へ低下した5日移動平均線を抵抗に下値を探るリスクも共存したまま。だが、10月1日安値79.90円や、2020年10月から今年10月の上昇幅の半値押し79.70円などが、下押しを限定するか。反発となれば、現在81円台に位置する転換線付近を試すことになるだろう。

レジスタンス1 80.90(ピボット・レジスタンス2)
前日終値 80.28
サポート1 79.70(2020/10-2021/10 上昇幅の半値押し)

